

令和5年度第1回 静岡市清掃対策審議会会議録

1 日時 令和5年6月21日(水) 午後2時から3時45分

2 場所 静岡市役所本庁舎 第1委員会室

3 出席者 (委員)

尾崎委員、浜田委員、平井(正)委員、杉本委員、児嶋委員、板谷委員、石田委員、菊地委員、竹内(光)委員、窪田委員、斉藤委員、大畑委員、久保田委員、竹内(佐)委員

(事務局)

田嶋環境局長

【ごみ減量推進課】

三木ごみ減量推進課長

【廃棄物対策課】

長田廃棄物対策課長、菅澤主幹兼係長

【収集業務課】

鈴木収集業務課長

【廃棄物処理課】

小林廃棄物処理課長、村垣課長補佐

4 傍聴者 0人

5 会長、副会長選出

6 報告事項

- (1) 一般廃棄物処理の許可手続のための規程の整備について
- (2) 令和4年度静岡市一般廃物処理実施計画実施状況について

7 会議録

(廃棄物対策課 長田課長より報告事項(1)の説明)

尾崎会長 意見、質問等あればお願いしたい。

大畑委員 今の説明の内容について、処理に関する内容だと思うが、どんな見込みをしているのか。リサイクルをどのように取り組むつもりなのか。また、パブリックコメントの内容はどんなものか。

長田課長 資源循環に資するもの、つまりリサイクルを主眼においている。どんなものを認めるのかについては、今後詰めていく。パブリックコメントの内容についても、現時点ではお示しできるものはない。

大畑委員 わかった。

杉本委員 整備内容の中の2段目、法に定める許可要件への適否を判断するための具体的な基準を定めるものの中に例があり、市の一般廃棄物処理基本計画に適合すること、とあるが、許可に関する審査基準の中に計画への適合というのが、あまりイメージがつかない、もう少し説明を。

長田課長 一般廃棄物処理基本計画に適合すること、というのは、廃掃法に書いてある内容。今回の計画にて、循環型社会形成の観点から、その処理後物が有効利用されることが確実である場合については許可を認めていくとされたところ、これに該当するかを判断するもの、この判断基準を今後定めていく。

杉本委員 これまでは許可をしていない、ということは、いまやっている事業者は既存許可でやっていたということで、新たに許可を得る業者というのは、リサイクルをやっていく事業者のためのもので、既存業者はリサイクル関係の努力はなくても許可はそのまま、ということでよいか。

長田課長 認識のとおり

尾崎会長 大畑委員からパブコメの件の話があったが、当局からはまだ内容が示せないで説明があったが、いつごろ内容を示せるのか。パブコメ前に、前もって委員に示すことができるのか。

三木課長 パブコメの内容については、確定次第、委員の皆様へ事前送付させてもらう。

尾崎会長 大畑委員、よろしいでしょうか。

大畑委員 ありがとうございます。

(ごみ減量推進課 三木課長より報告事項(2)の説明)

- 尾崎会長 意見、質問等あればお願いしたい。
- 児嶋委員 今回増加分について台風被害による災害廃棄物を想定しているとあったが、実際にどのくらいの想定をしているのか。たとえば、月ごとの試算を行い、増加傾向をみるなど可能か。
- 三木課長 調べて、お知らせする
- 久保田委員 減量が鈍化しているというお話があった。目標の達成が難しい状況だが、どんな施策を実施するのか。例えば、半期ごとに集計をして、達成が難しい場合は減量施策を行っていく、などは予定していないのか
- 三木課長 前計画の施策状況では鈍化していくということで、今後鈍化せずにごみ減量をしていくために新たな計画を策定したところである。
事業系ごみについては、これまで一般廃棄物を清掃工場にて焼却処理を行ってきた中で、世の中がリサイクルに動き始めており、全てを焼却するという市の立場でいいかどうかというのを踏まえ、規定を見直してリサイクルできるものについては新たな許可を認めていくとしたこと、
家庭ごみについては、雑紙のみに集中していたところを、家庭ごみの組成の中で、生ごみが40パーセント、紙ごみが30パーセント、プラが20パーセントを占める中で、これらの3つのごみの減量を強化していく、というのを新たな計画にて記載したところ。
- 窪田委員 ごみが増えたという説明があったが、ペットボトルが増えたから、ごみが増えたのかな?と思ったが、台風は静岡市全域に被害があり、ごみが非常に多く出たとわかった。区ごとの差はないかもしれないが、清水と、静岡とで比べると、清水のごみの収集の仕方、びんかんも含めて、ごみの捨て方について違いを感じる。自治体が協力している清水区、葵区駿河区も自治会が協力しているが、清水区の方が、より分別の仕方、細かく分けている。雑紙についても燃えるごみにはしていない。清水区・葵区駿河区を別にすると、ごみ量がどれくらい違うのか気になる。ごみ袋にペットボトルが入っているのを見る。ペットボトルをどれくらい燃やしているのか。

三木課長 区ごとの比較は難しいが、先ほど説明したごみの組成については、家庭から排出されたごみを、清水区と葵区、それぞれで組成調査をしている。その組成について、差はない。燃えるごみに入っているペットボトルについては、清水区の方が少ない、という印象はある。ごみの回収方法については、今後統一についても検討していく。プラスチックを燃やす、という方針の転換はある程度必要という中で、今後検討していく。

窪田委員 プラスチックの分別の検討について、どのように進めていくのか

三木課長 市長の定例記者会見において、プラスチックの分別の検討を進めよと指示事項があったところ。現在は検討を始めたばかり。現在、プラスチックのリサイクル施設が近隣になく、こういったリサイクル施設の整備に意欲のある事業者について、サウンディング調査を実施中。まだ検討始まったばかりだが、こういった形で、検討を進めていく。

窪田委員 企業は既に回収をしているが

三木課長 たとえばセブンイレブンがペットボトルを回収しているように、事業者の取組は進んでいる。特にペットボトルについては、分別しやすいため、取組が進んでいると認識している。

竹内（光）委員 目標値に対して鈍化している傾向があるが消費者協会としては一生懸命やっているつもりであるが、一般市民は非常に意識が低い。私たちの町内会では、段ボールが出ていたり、ペットボトルが出ていたり、新聞紙が出ていたりなど、市民意識の低さを感じる。生ごみがずっと40%を占めているということを伝えながら、堆肥化やごみの水きりなど、減量の取組について説明しているが、市民意識が低いとどうにもならない。意識を上げるために市にやっていただきたいのは、ごみの分別についてわかりやすく周知してほしい。また、ペットボトルなどは事業者が一生懸命回収しているのにも関わらず、あれだけ燃えるごみに出ている。消費者協会の会員は年齢層が高く、アンケートをとっても、ペットボトルの購入はそこまで多くないが、こういった会議に出るたびに、ごみの減量や分別が進んでいないと感じる。小学生も、清掃工場の見学などでごみ学習をやっていると思うが、食品ロスの減量やペットボトルの分別が進んでいない。取組を強化してほしい。

三木課長 チラシをお配りしたが、ごみ減量に係るセミナーについて実施予定。こうい

った機会を通して、直接計画の意味を知ってもらうこと、啓発的な部分でどう減らしていくのかというのを市民に訴えていく。また、小学4年生がごみ学習を進めているが、清掃工場の見学と併せてごみ減量啓発施設を活用して、学習を進めていく。出前講座という形態では、年齢層問わず、広く啓発を進めていくので、ぜひ声をかけていただきたい。委員がおっしゃるとおり、市民意識が変わっていかないというのも、なかなか市の方で把握できない点ではあるが、今後も啓発を強化していく

杉本委員 静岡県内でもごみが多い、他政令市と比べても多い。なぜ静岡市が全国平均よりも多いのか、他政令市とどう違うのか、この理由について、どう分析しているのか。目標値について、そもそもなぜこの数字にしたのか。この目標を達成するとどういった現状になるのか。

三木課長 目標の設定方法については、施策ごとの減量、たとえば、啓発で何グラム減るといふ数字は出ない。各種施策の効果を想定し、現在、全国平均より高いという状況を現状から、まずは国の目標値を達成するとしたもの。他都市の具体的な施策で何が減ったというのは分析しにくいところ。また、ごみ量には事業ごみが含まれているため、事業活動が活発なところは事業ごみが多く出てきており、一概に各市特化したもので減っているのが見受けられないのが現状。とはいえ、京都市は観光業が盛んであるがごみが少ない点など、研究を進めていく。

杉本委員 たとえば京都市は何が違うのか

三木課長 具体的には、分別品目の多さ。リサイクルに回っている物が多い。静岡市はこれまで清掃工場における焼却という行為をとっていたため、分別してリサイクルに回すことがすぐできないということが最大の要因と考えている。

杉本委員 沼上、西ヶ谷の大きな工場を持っているところ、何でもかんでも燃やせばいい、という認識であるところ、ごみそのものを減らすという点で分別が一番であるとなると、結果的に静岡市は分別がうまくいっていないということ。啓発を進めていく、というのは従来までの減量方針と変わっていない。もう少し違った角度で分別をするための方策が必要。子供のころから分別に取り組んでいけば、自然とできていく。こういったことが静岡市はできていないのかなと思っている。小さいころから分別に取り組む姿勢、習慣づけ、清掃工場への見学だけでは身につかない。こういった新たな施策は何かない

のか。

三木課長 リサイクルはお金がかかるため、焼却という手段をとっていた。これについては、CO₂の観点なども鑑みて、今後検討していく。学生向けだけではなく、年齢層を問わず、出前講座は実施していく。広く周知していきたいと考えている。

窪田委員 市民に向けて積極的に呼びかけてほしい。連合会長が集まるところで、ごみ問題について話していただいて、各町内に出前講座が浸透できるような、少なくとも年1回できるような、仕組みを作ってほしい。小学4年生への環境学習の話があったが、幼稚園にも必要だし、特に必要なのは大人や先生。飲食店は分別する暇がなく一緒くたに捨てている。たとえば大学の先生にレクチャーしていただいて、どうしたら市民の意識レベルを上げられるのか研究してほしい。意識レベルが低いのは、そもそも必要性を感じていないから取り組んでいない。市民がごみの減量を自分ごとのように取り組めるようにしてほしい

三木課長 廃棄物減量等推進委員での報告会や、校長会を通じて周知に取り組んでいるが、今委員から提案があったので、自治会にも働きかけていきたい。

石田委員 たしかに、町内会では出前講座を実施しているが、すべての市民に周知できているのかは不明。出前講座は昼にやるが、働いている世代は来られない。今回セミナーは夜にやるようだが、ぜひ駿河区でもやっていただきたい。

三木課長 今回は葵区と清水区を会場としたが、駿河区でも実施させていただく

板谷委員 自分は葵区の西奈南学区の町内だが、いま説明のあったように、減量推進委員がまわってくれているが、燃えるごみに燃えないごみが入っているなど、まだ分別ができていないという報告があがってくる。やはり、まだまだ啓発が必要と思っている。言うは易しであるが、もっと説明が必要と認識している。他市にもいたが、静岡はごみの出し方が一番ゆるいと感じている。たとえば、東京では不適正な排出は置いて行かれてしまう。徹底された分別によって、かなりリサイクルが進んでいると感じている。新しい計画に基づいて、リサイクルに特化した施策を実施し、方針転換が必要ではと感じている。

菊地委員[W-1]

竹内委員から話があったように、出前講座やセミナーに行く人は、意

議の高

いい人。ここに行かない人をどうするか。自治会が900いくつあるが、ここに、一回は出前講座を受けてもらう、のような強い施策を打つ必要があると認識している。口ばかりではだめで、連自治会が集まるところで話すのも良いが、各自治会に訴えていくことが必要。減量等推進委員もやってくれる人と、そうでない人がいる。全体としてきちんと活動されているかどうかの確認の仕方も市の方で考えてもらいたい。

三木課長

おっしゃるとおり、自分が昭和63年に採用されたときは、びんかんを分けて排出するというルールをとったときは、各自治会に出向いて話をした記憶がある。すぐに、全自治会に出向くのは難しいかもしれないが、今後そういった手法も考えていきたい。また、いま指摘のあった、セミナーには意識の高い人しかこない、という問題点は認識している。今後どう呼び込めるかという点でも検討していく。

大畑委員

まず発信力が足りない。発信の方法を考えてほしい。若い人に向けた周知は、SNSの活用などを考えてほしい。紙ごみの話について、専用の袋を作るとするのはどうか。一番危惧しているのは、空き家の税制措置が変更となると、解体家屋が増え、解体ごみが増えるのではと思っている。こういった想定外の出来事が毎年出てくるところ、様々な検討をしてほしい。

三木課長

まずSNSについて、今年度、ツイッター、LINEなどのSNSアカウントを取得したため、今後も発信していく。雑がみの袋の分けについては、袋を分けて集積所に集めるとなると、収集費用が倍になってしまうため、現在は家庭内で分けて古紙回収や古紙ステーションに回していただくよう、お願いしている。解体ごみについては、法的に整理されており、ごみとして処理されることはないと考えている。

大畑委員

ペットボトルの問題について、ペットボトルを作らないという方針はないのか

三木課長

国からペットボトルを作るな、という話はない。ただ、新法の中で、再資源化への取組を強化するよう、定められているところ。ペットボトルについては、ペットT○ペットの取組が強化されている。

大畑委員

広く知らせるには、面白くないといけない。継続するには楽しくないといけ

ない。先ほど話のあった、ペットボトルにポイントをつけるといった、インセンティブをつけることが重要と考える。こういった施策についても検討を。

三木課長 ありがとうございます。セミナーについては固くならないよう心掛けていく。

窪田委員 あなたの出したごみが地球を救うよ、というような、アピールができる、環境を考えている、循環を考えている、のような発信をしてほしい。学校に呼び掛けて、アイデアを集めるような取組を実施してほしい。

三木課長 イベント等にも学校単位で参加いただきながら運営をしているので、そういったご案内をみなさんにもお出しさせていただく。

久保田委員 自治会の組長をやっていたが、減量推進委員の動きがみられなかった。本来、どういった取組をやってもらうものなのか。実態を教えてください

鈴木課長 減量推進委員について、人によって違うところがあるかもしれないが、集積所を見回って、排出状況を確認、不適正な場合は市に報告をしてもらう。市民と市の間で立っていただき、ごみの減量に繋げていく役割。推進委員向けの勉強会については、地区ごとに分けて実施しているところ。人による差を埋めるよう、勉強会といった取組を進めていきたい。

久保田委員 活動内容の報告頻度などはどのくらいか。

鈴木課長 年度の最後に、報告書という形で出してもらっている。好事例については、各自治会へ報告もしている。こういった取組を継続している。

板谷委員 一カ月に一回、自治会の集会に、ごみ減量推進委員にも出席してもらい、不適正なごみ排出があった、というような話を報告してもらったりしていた。この報告がどこまで周知されているかまでは把握できていないが、減量推進委員との情報交換も大切と感じる。

久保田委員 推進委員という実態を知らない市民の方が大半ではないかと感じている。

菊地委員 推進委員が自治会の集会で発言してくれる人もいます。しかし、自治会の中で

推進委員に報告してもらうような場が少ないと感じる。全ての推進委員は自分が発言する立場にあること、自治会長は発言する機会を設ける役割を持っているということを知ってほしい。

石田委員 減量推進委員はよく回っている人もいれば、そうでない人もいる。上期と下期で報告は100%出ているのか

鈴木課長 この場で正確な割合はわからないが、8割以上は出ているのではと思う

久保田委員 減量推進委員の活動をもっとしっかりとして、存在をアピールしてほしい

竹内（光）委員 市の処理施設、沼上と西ヶ谷に伺わせてもらっているが、西ヶ谷は熔融処理をしているが、それでもまだ最終処分しないといけないものが発生してしまう。その最終処分場が数年でいっぱいになってしまうという話があった。こういったことを、市民に伝えてほしい、いくら良い熔融炉であっても、最終処分しなければならないものが出てしまうという事実を伝えてほしい。話が少し変わるが、生ごみを減らすために、どんなことを市民に伝えているのか。どうしても減らしきれない生ごみについて、生ごみ処理機を利用して減量している。自分の家では、ほとんど生ごみが出ていない。一台目の生ごみ処理機には市の助成があった。今何か、生ごみを減らす取組はしているのか。

三木課長 西ヶ谷清掃工場について、熔融処理を行い、スラグ化を実施しているが、それでも排気ガスに含まれる灰「飛ぶ灰」がどうしても発生してしまう。この飛灰について、リサイクルに向かないものであり、埋め立て処分を実施しているところ。現在、この飛灰の埋め立て先として、新たな最終処分場の整備を進めている。
生ごみについては、まず3切りの実施を啓発していく。食品ロスについては、家庭から出る食品ロスだけではなく、事業系の食品ロスについても削減を事業者へ求めていく。外食時のお持ち帰りなど、可能な手段について周知を進めていく。

杉本委員 3切りについて、もっと具体的に周知してほしい。使い切りでいうと、食品ロスに繋がるレシピの募集や、水切りでいうと、飲んだ後の茶葉を切る、食べ切りについては、食品の保存方法を周知するなど、もっと具体的な施策を周知していただきたい。

三木課長 3 切りについては、説明をあえて省略させていただいたが、詳しい具体策についても説明をさせていただいている。たとえば、食品ロスに繋がるレシピについては、鈴木学園と連携して料理教室を実施しているところ。今後も、市民にわかりやすい形で啓発を進めていく。

浜田委員 静岡市行政側の取組についてお話をさせていただくと、たとえば、10 年間でごみが減っている事実はある。これは、行政や市民の取組によるもの。ただし、他市と比べるとまだ多い。これからも努力は必要である。家庭ごみの減量が進んでいる市の特徴として、家庭ごみのごみ袋の値段が高い。家庭ごみの負担が大きいので、リサイクルを促進するという流れがある。静岡市も、リサイクルをしたらもっと得になるよねという流れができれば、静岡市型の良い流れができると思う。これについて、皆様の御意見を頂戴できればと思う。

三木課長 ごみの有料化について、国もごみの有料化はごみの減量化に最も効果的としているところ、過去に有料化を検討した経緯もあるが、有料化の前にまだやる可能性があるということで、これまで減量化を進めてきた。とはいえ、ごみが減ったからといって将来にわたって有料化をしない、するということが現時点でお話できる状況にはないが、かなり大きな方針転換になるので、その際にはまた議論させていただければ。

尾崎会長 ご意見はまだまだあるかと存じますが、時間の都合上、ここまでとさせていただきます。

これをもって令和 5 年度第 1 回静岡市清掃対策審議会を閉会する。

(閉会)

8 会議録署名

会長 尾崎 行雄